

1. 研究課題名：気候変動の緩和策と適応策の統合的戦略研究

2. 研究代表者氏名及び所属：沖 大幹

(東京大学生産技術研究所)



3. 研究実施期間：平成 27-31 年度

4. 研究の趣旨・概要

緩和策と適応策とは気候変動対策における車の両輪である、と位置づけられているが、つい最近まで両者は別の文脈で取り扱われることが多く、日本では適応策への取り組みが遅れていた。ようやく 2015 年夏に日本政府全体の適応計画が取りまとめられる予定であり、両者の統合的な実施による効果的で効率的な気候変動対策の計画立案支援、ならびにカンクン合意に基づく発展途上国向けの気候変動適応計画の策定に関わる国際交渉に資する研究開発が期待されている。本研究では、緩和策と適応策との統合的な実施によって復元力に富み、持続可能な社会を構築しようとする施策を国内外で実施するにあたり、投入可能な経済的、人的、制度的資源が限られている条件下で、緩和策、適応策にどのように取り組むことがもっとも効果的かつ効率的であるかに関する定量的基礎資料を整備し、リスクマネジメントとしての気候変動対策の適切な計画立案に貢献する。

5. 研究項目及び実施体制

① 全体の総括と統合的戦略評価

(東京大学、東京都市大学、九州大学)

② 生態系保全による緩和策と適応策の統合

(横浜国立大学、国立環境研究所、森林総合研究所、港湾空港技術研究所)

③ 気候変動に対する地球規模の適応策の費用便益分析

(東京大学、農業環境技術研究所、筑波大学、茨城大学)

④ アジアのメガシティにおける緩和を考慮した適応策の実施事例研究

(東京工業大学、東北大学、東京大学)

⑤ 気候変動に対する地球規模の緩和策と適応策の統合的なモデル開発に関する研究

(国立環境研究所、東北大学、森林総合研究所)

6. 研究のイメージ

